

学校関係者評価票

学校名：歯学部附属歯科衛生専門学校

【学校関係者評価の主な評価内容】

○自己点検・評価結果の内容が適切かどうか ○自己点検評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか ○重点目標及び自己点検評価項目等が適切かどうか ○学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

基準	専門学校		学校関係者評価				
	取組状況・評価に対する意見等	取組評価	取組状況・評価に対する意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組評価
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか	歯科衛生士学校養成所指定規則に基づくカリキュラムに従い、全国歯科衛生士教育協議会で指定される教科書等を使用することで国家試験対策を行っている。また、授業計画（シラバス）には、学修到達目標、授業時間、成績評価、注意事項等を掲載している。	A	身につけて欲しい事、成績の付け方、授業、実習の内容、タイムテーブルも示し、シラバスを見ればすべてが把握できるよう、大変学生に親切な準備がなされ、国試対策にもしっかり取り組まれている。 また、座学だけでなく1年生の時期から実習時間がしっかりと確保されており、知識・実技に関する試験・評価が定期的実施されることで効果的に教育を行っていると感じる。	模擬患者実習で歯科衛生過程に沿って同一の患者の経過を追っていて、より臨床に近い形で実践しているのが良いと感じた。 国家試験対策に早期から力を入れており、歯科衛生専門学校の教員や、大学の講師による対策授業が行われている。	学生の学習意欲向上の一環として、介護関係やケアマネージャーなど歯科衛生士以外の資格を取得できる制度があると良いと感じた。	特になし	A
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	授業内容及び方法の改善を図るための組織的研修について、衛生専門学校教学IR専門委員会を開き、学生の修学状況を把握し、個々に適応した指導を行っている。また、授業評価のアンケート調査の結果に基づいて、校長が担当教員へアドバイスを基に授業の改善及び学生指導等に役立っている。	A	IR委員会により、シラバスの書き方や評価法等を点検し、成績を踏まえた個々の学生への対応がなされている。 授業について学生へアンケートを行い、状況の把握、改善に尽力されている。	授業に関するアンケートがWEBから入力できるようになっており、教員、講師の先生方にとっては厳しい意見もあるようだが、記入時間や周囲の目を気にすることなく率直な意見を記入することができる。	継続して学生からの評価が低い教員に関しては、可能であればより適切な教員に変更するのが良いと思われる。	特になし	B
学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	学生募集について、ホームページによる周知、広告業者の電子媒体による周知、進学相談会や学校見学での周知を行っている。入学選抜方法については、付属高等学校推薦入試、一般推薦入試、一般入試を実施している。	C	高校での学校説明会、進路説明会を行うほか、学園祭では体験会などを行い、学生募集に積極的に努めていることが評価できる。また、HPやリクルートマイナビなどを活用し、様々な媒体で情報社会に対応した積極的な学生募集を行なっている。 学生募集について、入試方法がAO入試や社会人入試が加わり、より多様化している。	入学試験の回数を増やしたり、AO入学試験を取り入れるなど、学生の確保に努めていることが評価できる。 より多くの優秀な学生を確保するために、AO入試や社会人入試は今後も継続してほしい。	時代の変化か、かつては高倍率だったが今年度は全入とのこと。学生の質の低下や、それに伴って起こる変化が心配。 学校案内のパンフレットは、附属歯科衛生専門学校と附属歯科技工専門学校を分けて作成し、掲載内容をより充実したものにすべきである。 退学者を減らすため情報収集、分析をし、具体的に対策を図る必要がある。 また、現在、女子の学生しか在籍していないので、今後は男子学生の受け入れを検討してほしい。	短大、大学進学希望者をいかに本校志望に転換してもらえるかが課題である。	B
学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	専門学校運営委員会において入学選抜の公正性や適切性について検証し、次年度の入試計画に反映させている。	B	入試選考は明確な基準を設け、遂行されている。 学生の質向上のため、入試方法や試験内容の見直しを実施している。また、入学が決まった学生向けの入学前学習についても検討が行われている。	入学が決まった学生への入学前学習の実施について、引き続き検討を進めてほしい。	現状の教職員だけでは規程通りに機能させることが難しいと思われる。	特になし	B
ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	全国歯科衛生士教育協議会及び日本歯科衛生教育学会主催の講習会を段階ごとに受講することで、歯科衛生学教育法や行動科学、コミュニケーション能力等の向上を図り、専任教員認定歯科衛生士としての資格を得ている。	A	歯科衛生士専任教員の講習会を受講し、指導するうえで必要となる知識の習得、学生への指導方法、コミュニケーション能力向上等について学ぶことができています。 また、すべての教員が研鑽を積んでいる。常にレベルアップを心がけ努力し続けている。	各教員に適した内容の講習会への、段階的な受講を行っている。	特になし	特になし	A
教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	専修学校設置基準及び学則等に基づいて適切性について点検・評価を行っている。	A	適性に点検を行い、改善への取り組みがなされている。	特になし	特になし	特になし	A
進路指導における重点目標	就職ガイダンスを行い、卒業生6名に勤務先の話をしていただく。その後、卒業生を囲んでディスカッションをしている。 歯科衛生士概論でも卒業生による業務の講義をしてもらっている。 また、臨床実習でも一般開業医の業務見学を組み込んでいる。	A	進路相談や歯科衛生士としての現場を体感するために開業医見学等が行われている。 キャリア教育についても、これから入れていく予定とのこと。	時代に沿って考えられている。	特になし	歯科医院の見学は3年次に行っているが、1年次にも行うことで、目指す歯科衛生士像を早期に抱くことでモチベーションを上げることができるのではないか。	A